

Ⅲ 大学での研修に対する教員の期待

鈴木そよ子

はじめに

教員免許状更新講習の実施によって、多くの大学が小・中・高等学校の教員の研修に関わるようになった。この教員免許状更新講習は、2006年7月の中央教育審議会答申を受けたもので、教員免許状の有効期間が10年間に区切られ、免許状を更新するために講習に合格することが義務付けられた。本学では2008年度の試行と2009年度の第一回講習を実施した。

これまで大学が組織として関わってきたのは教員養成であったから、現職教育に当たるこの講習は、大学にとっても受講する教員にとっても、新たな取り組みとなった。実施要項については文部科学省から繰り返し説明を受けたが、受講者である小・中・高等学校教員が、どのような内容・方法の研修を望んでいるかという調査やデータについての情報は乏しかった。

本学の教職課程では、せっかく新たな取り組みをするならば、講習実施前に教員の要望を把握したうえで企画したいと考え、卒業生の現職教員に質問紙調査を行った。

20歳代から50歳代の185名が自由記述で回答してくれた内容を分析した結果、大学での研修として期待されているのは、大学ならではの知見や設備を生かしながらも、学校での教育実践に寄り添うような内容で、参加型の研修であった。意見交換のできる環境が求められていた。本学では、この結果を生かして講習の運営にあたり、受講者から好評を得た。

質問紙調査の対象者は神奈川大学の卒業生で、20歳代から50歳代の237名の教員を分析対象とした。分析対象者の年齢層の割合をみると、20代・30代の若者が60%を占める。40代、50代はそれぞれ20%の割合である。勤務校種別では、中学校の約50%が一番多く、次に小学校の約22%で、3番目が高等学校の約19%となっている。

質問紙の項目の全容は、鈴木そよ子「共同研究『教員のキャリア形成に果

たす神奈川大学の役割』について」(『神奈川大学心理・教育研究論集』第27号、2008年3月、pp.111～121)に資料として掲載している。本稿はこの質問項目のうち、自由記述による回答を求めた問7の分析内容である。

問7では、「大学で研修する機会があれば、どのような内容や方法の研修を期待しますか。」と尋ねた。回答者が大学を研修の場として見たとき、どのような期待を持っているのかをストレートに尋ねた。回答形式は自由記述形式になっている。17cm×6cmの枠のなかに、単語や、箇条書き、または文章などを自由に書くことができる。

1. 回答の傾向

問7の回答者は185名。全回答者数のうち78%の回答率になる。1名が複数の内容にわたって回答している場合もある。内容項目の件数を年齢層別に見ると、20代90件、30代125件、40代50件、50代54件。対象者の比が20・30代対40・50代が約3対2であるのに対して、件数の比は20・30代対40・50代が約2対1となる。20・30代の回答がいかに多いかがわかる。

質問文で「どのような内容や方法の研修を期待しますか」と尋ねたので、まず、回答を「内容」と「方法」に大別して、次にすべての回答を分類して整理する区分として、次のような大項目から小項目までを構成した。項目ごとの回答数を資料1「内容に関する回答」、資料2「方法に関する回答」に挙げる。

資料1 内容に関する回答(230件)

| | |
|------------------|-----------------|
| ①教科・道徳・総合的な学習の時間 | |
| | (34+38+8+15=95) |
| a 理科 | (5+6+0+0=11) |
| b 英語 | (1+2+1+3=7) |
| c 情報 | (2+3+0+2=7) |
| d 他の教科・領域 | (3+4+2+2=11) |
| e 全般 | (23+23+5+8=59) |

| | |
|-------------------|------------------|
| ②生徒指導・子ども理解・進路指導 | (14+27+12+14=67) |
| a 生徒指導 | (5+4+7+6=22) |
| b カウンセリング・軽度発達障害等 | (8+21+5+7=41) |
| c キャリア教育 | (1+2+0+1=4) |
| ③学級経営・学校経営 | (5+6+4+2=17) |
| ④保護者・地域 | (2+1+2+3=8) |
| ⑤校務・評価 | (6+2+2+2=12) |
| ⑥法律関係 | (0+2+0+2=4) |
| ⑦職場の人間関係等 | (0+0+1+1=2) |
| ⑧教育課題 | (1+3+0+0=4) |
| ⑨大学の教育・研究 | (6+9+3+3=21) |

資料2 方法に関する回答(76)

| | |
|---------|---------------|
| ①参加型 | (7+11+4+2=24) |
| ②事例研究 | (7+14+9+8=38) |
| ③相談・交流会 | (3+7+3+1=14) |

- 注1. 「神奈川大学・教員キャリア形成研究会教員のキャリア形成についての調査」(2007年実施)の間7の回答を整理したものである。
2. 1名の回答が複数の内容にわたる場合は、文や項目ごとに分けた。
3. 項目ごとの数字(○+△+□+☆=●)は、○が20代、△が30代、□が40代、☆が50代の回答数を示し、●が合計を示す。

資料1・資料2の回答数では全回答数の約75%が「内容」に関するものであり、約25%が「方法」に関するものである。

「内容」の中で1番多いのが、「教科・道徳・総合的な学習の時間」に関するもので、「内容」全体の約40%を占める。2番目が「生徒指導・子ども理解・進路指導」に関するもので、約30%に当たる。3番目が「大学の教育・研究」であり、約9%になる。

「方法」では、「事例研究」についての期待が50%、「参加型」が約32%、「相談・交流会」が約18%という割合になっている。

全体的な傾向としては、「内容」に対する関心が高く、「教科・道徳・総合的な学習の時間」と並んで「生徒指導・子ども理解・進路指導」に関する要望が高い。「方法」では「事例研究」「参加型」という2点が要望のポイントになっている。「内容」と「方法」それぞれにどのような期待が述べられているのかを具体的に見て行く。資料3「項目別回答一覧」として、分類した全回答を文末に挙げる。

2. 研修内容として期待するもの

① 教科・道徳・総合的な学習の時間

この項目の件数が最も多く、95件。このうち、20代・30代の教員が約76%を占める。専門知識、教材研究、授業方法、「達人の授業」の指導方法、退職者による実践的ですがすぐ使える内容の研修、教科教育法の新しい流れ、指導法の過去と現在のメリット・デメリット等、教科を巡る多様な側面からの要望がある。

② 生徒指導・子ども理解・進路指導

この項目の件数が2番目に多い。回答者の年齢層に注目すると、30代の件数が他の年齢層の2倍になっている。また、この項目の3つの分野別に件数を見ると、a 生徒指導：b カウンセリング・軽度発達障害等：c キャリア教育は、22：41：4で、カウンセリング・軽度発達障害等が約62%を占める。資料1「問7・内容に関する回答(230件)」によって、年齢層と分野別の件数を重ねてみると、②の回答では特に30代の要望が強く、しかもこの30代がカウンセリング・軽度発達障害等についての研修を望んでいることが分かる。カウンセリングの研修、児童理解に関する研修、LD,ADHDの子ども理解と

その対応、軽度発達障害に対する実践的指導など、資料3「項目別回答一覧」の回答文からも切実な必要性が窺える。

③ 大学の教育・研究

この項目の件数は3番目に多い。専門教科との関係で最新の研究を体験的に大学で学びたい、教育実践との関係で教育についての考え方を学びたいという二つの方向がある。そして、「新しい学校の方向性を探り、現場から変えていこうと教師が元気のでる研修がうれしい」というメッセージもある。

3. 研修方法として期待するもの

① 事例研究

この項目の件数は38件で、「方法」の総回答件数の50%になる。明確な傾向として読み取れる。講習の内容として具体性がある、自分の体験や知識を重ね合わせて考えることができるもの、また、これまでの実践を振り返り、明日からの生徒たちとの関わりに活かしていけるものを望んでいることがわかる。

実践事例・実践研究というと、講師があるまとまった話を用意して、それをたどりながら参加者と共に考えていく形の講習が一般的だと聞く。問7で「事例研究」と答えた回答者がこの形をイメージしているのか、あるいは、講習参加者である自分たち自身が事例提供者になることをイメージしているのかはわからない。対象者全体から見ると、1人1回答として、16%の回答者の要望である。

② 参加型

この項目の回答件数は24件。「事例研究」よりさらに参加度が高い。集団討論、ワークショップ、分科会形式で参加者が討論、ロールプレイング、カウンセリング体験、エンカウンターグループの実践、模擬授業の生徒役など、実践的な取り組みへの提案が示されている。対象者全体から見ると、1人1回答として、約10%の回答者の要望にあたる。

まとめにかえて

今回の調査結果にもとづくと、教員免許状更新講習を大学における小・中・高等学校教員の「研修」としてみるとき、期待されるのは、学校での教育実践にぴったり寄り添った内容で、少人数の研修となる。参加者が意見交換のできる環境が求められている。その研修での講師は、ファシリテーターか、スーパーバイザーのような存在であろうか。他県、他校種、大学生との交流も回答者の希望に含まれており、交流の場としての期待も大きい。

大学で研修をするとき、どのような層を対象とするのか、成果として何をねらいとするのかによって研修の内容と方法は異なるが、一度の研修で終わるのではなく、大学と教員の交流の場や、アドバイス・サポートの継続も考えるならば、これに価値を見出す教員層があることも回答の分析から把握できた。

資料3 項目別回答一覧

- 注
1. *の文は、一文の中に複数の内容を含んでいる回答であり、該当する複数の項目に同一文を掲載している。
 2. 各文は基本的に質問紙の回答の表現を転載したが、文意が変わらない範囲で文末や文中の一部を省略したことがある。
 3. 各文の先頭にある数字は回答者の年齢層を示す。2は20代、3は30代、4は40代、5は50代を示す。各人数合計が資料1・2の人数に当たる。
 4. 類似の回答であっても、各回答のニュアンスが異なるので、すべての回答を掲載している。

(1)実施内容

① 教科・道徳・総合的学習の時間・特別活動

a 理科

- 2・基本的な面白い実験
- 2・教科に関する基礎、専門、実験のコース
- 2・実験研修。授業で活用できるようなもの
- 2・理科の実験研修(教科書にないような実験の紹介、安全確保)
- 2・簡単にできる科学の演示実習みたいなもの。身近なものと科学とのかわりみたいな内容
- 3・生物など理科系の最近の内容
- 3・*理学部で専門的に研究している方向性や、理科の先端研究の紹介などの研修、これらと中学で教える理科とのつながり
- 3・新エネルギーなど、最先端技術
- 3・実際に授業で使える、簡単に生徒が関心をもてるような実験などの教材研修
- 3・*大学でしか受けることができない研修。例えば専門的な内容、最新の学術研究、カウンセリングやIT活用といった、現場で特に活用できるものなど
- 3・少ない授業を効率よく行っていくため、実験室で行う授業の他、授業中に教室で生徒と一緒にでき、簡単に時間をあまりかけないが、生徒の興味・関心を起こさせるような実験や観察の紹介

b 英語

- 2・英語音声学、通訳速修をもう一度しっかり学び、中・高生にあった指導を学びたい
- 3・英語の小中連携
- 3・英語(初等教育用)
- 4・英語音声学、文法論
- 5・Team Teachingの方法。Speaking力をどうつけるか
- 5・英語教育

5・語学。英語を使つての小学校での授業

c 情報

2＊ネットワークの研修、実践事例

2＊IT活用法

3＊大学でしか受けることができない研修。例えば専門的な内容、最新の学術研究、カウンセリングやIT活用といった現場で特に活用できるものなど

3・IT教育の功罪。CALL vs. 通常授業、電子辞書vs. Dictionary

3＊IT研修 (①評価、方法の工夫 ②マクロ、エクセル等の利用)

5・情報教育CICT教育についての研修

5・IT研修

d 他の教科・領域

2・教科に関する専門知識(特に、道徳、数学、国語)

2・総合学習、道徳の時間の進め方、年間の計画の仕方

2・自分の教科の指導技術向上のため新しい指導法について(細かく分けるのは難しいだろうけど中学数学、高校数学くらいの区別はあってほしい)

3・部活動におけるメンタルトレーニング方法

3・道徳・学活の指導法

3・部活動の運営や技術についての研修

3・国際交流のあり方。具体的には語学研修や留学生の受け入れ

4・部活動指導・コーチングの研修

4・公民的分野の楽しい授業展開

5・学校図書館に関する研修

5・道徳

e 全般

2・教科に関する内容

2・授業づくりと改善方法

2・自らの授業の自己批判と他者批判、教科を超えて

2・自分の専門知識を高められる研修

- 2・活躍されている先生方の指導方法の研修「達人の授業」
- 2・過去の指導法と現在の指導法の比較とそれぞれのメリット・デメリット
- 2・各教科における最新の情報
- 2・実践事例の検討—授業方法、特に教科書の活用法
- 2・教科教育法や実践例の研修など、自己の技術向上になる研修
- 2＊実践的指導法研修(実技研修)
- 2・教科の教授法(アイディア)
- 2・専門性を高めることのできるような内容
- 2・少人数制や習熟度別授業に関する研修
- 2・専門家やベテランによる模擬授業
- 2・現職の先生方の普段の授業発表やその協議。または、同じ単元をいくつかのグループに分かれ、模擬授業。主に教科に関することで学びたい。
- 2＊教科や学級経営などの実践例が知りたい。成功例と失敗例など
- 2・専門科目の知識をより深くできるような研修
- 2・実践の指導に役立つ内容であること、退職者の教員などにより実践的で明日使える内容である研修。指導法に関する内容、実技研修
- 2・教科の専門的内容・教材研究について
- 2・教科の指導技術や教材研究
- 2・専門教養
- 2・教科指導においても、基礎・基本的な事ではなく、実際に授業の中で使える教材・教具についての話や、演習
- 2・専門的知識、技術を学べるような課題、そして実践的な活動
- 3・教科専門
- 3・総合的な学習の時間のあり方
- 3・教科の指導法
- 3・教科指導法の新しい流れ
- 3・教科の専門内容・指導技術

- 3 * 特別支援教育に関する専門内容・指導技術
- 3・学習指導要領とカリキュラム、具体的には未履修問題とならない独自カリキュラムの作成
- 3 * 教科指導の事例検討
- 3・教材作成に役立つこと
- 3・日ごろ分掌の仕事で、教科指導のための時間が十分にとれないので、自分の専門教科の指導力を向上させるための研修を受けたい
- 3・教科別専門別研修
- 3・専門教科に関する実践的な研修
- 3 * 教科の指導技術や不登校児の対応について。具体的な実践事例や他の人たちとの意見交換をしたい
- 3 * 教科、道徳、特別活動の継続的な 実践事例、最新研究など
- 3・教科指導における研修会
- 3・他国の教育情報、特に最先端のカリキュラムや指導法
- 3・教科に関する専門知識
- 3・実践資料(授業)の交換
- 3・授業の組み立て方について(特に専門外の科目)
- 3 * 現状に合った教科指導や生徒指導の研修
- 3・興味・関心をひく学習材と、学習内容に対する理解を深め、さらに定着をはかるための、実践例や注意点について
- 3・指導技術に関する研修
- 3・教師に求められる資質や技
- 4 * 実践事例に基づく教科専門
- 4・生徒が興味を持つ学習資料を見つける方法
- 4・神奈川・横浜を中心とした地理・歴史的な研修を、地域の子どものための身近な課題として伝えられるとよい
- 4・専門教科のスキルアップ、ブラッシュアップ
- 4・教科の専門性を高める
- 5 * 実際の授業実践をもとにした研修

- 5・専門知識
- 5・教科の専門知識
- 5*生徒を授業にひきつける指導方法や教材教具の実践例をみて研修(次世代の教員に)
- 5・現場で役立つ実践的教科指導
- 5・教授法に関する研修
- 5・日常生活にそくした教材開発
- 5*教育内容と指導方法—実践例をもとに
- ② 生徒指導・子ども理解・進路指導
 - a 生徒指導
 - 2・実践的な生徒指導や生徒理解の研修
 - 2*実践的指導法研修(実技研修)
 - 2*生徒指導が大変な生徒及びその保護者に対する指導の仕方とコミュニケーション力の研修
 - 2*生徒や保護者対応のロールプレイ
 - 2・子ども達のコミュニケーション能力の低下について→子ども達同士のコミュニケーションは本当に困難なもののように感じる。実例などの様子をふまえた研修。
 - 3*生徒指導の事例検討
 - 3*教科の指導技術や不登校児の対応について。具体的な実践事例や他の人たちとの意見交換をしたい
 - 3*現状に合った教科指導や生徒指導の研修
 - 3・先輩教職員による生徒指導上の経験談
 - 4・高校生(の心理)に関するもの
 - 4・多様化する生徒理解に関するもの
 - 4・児童生徒指導
 - 4・心理学的な立場から見た生徒指導
 - 4*生徒理解の方法・・・臨床心理士等によるケースワーク研修
 - 4・問題のある生徒とうまく関係をつくる方法
 - 4・具体的で、目の前の現実の子どもをとらえるために役立つ研修

- 5・様々な環境の子どもたちがどのような意識を持って登校しているのかを、いち早く知りたい
- 5・コーチングに関する指導法
- 5・現場で役立つ実践的教育相談・生徒指導
- 5・児童理解についての研修
- 5・児童、生徒理解。問題行動(いじめ、暴力、不登校)。安全指導。キャリア教育。コミュニケーション作り(ワークショップ型研修)
- 5・生徒指導のあり方。具体的方法
- b カウンセリング・軽度発達障害等
 - 2・生徒指導・カウンセリング、LD,ADHD児に関すること
 - 2・カウンセリング、特に不登校児童心理(対策)など
 - 2・カウンセリングマインドと話し方講座
 - 2・生徒指導中心の研修→多様化する子どもたちの理解と対応(不登校生徒への対応、カウンセリング、軽度発達障害などに関するもの)
 - 2・より具体的ですぐに現場で生かせる内容(ADHD、アスペルガーの生徒への対応)
 - 2・障害児に対する指導法と対応の仕方
 - 2・軽度発達障害児童・生徒の対応について→現在、小学校・中学校にはクラスの中にならず一人は軽度発達障害の子どもがいます。その現実や今後教員はどのような対応をしていくべきなのかといった内容。
 - 2・構成的エンカウンター(実践形式)
 - 3*教科の指導技術や不登校児の対応について。具体的な実践事例や他の人たちとの意見交換をしたい。
 - 3*大学でしか受けることができない研修。例えば専門的な内容、最新の学術研究、カウンセリングやIT活用といった現場で特に活用できるものなど
 - 3*実際にカウンセリングをする
 - 3*エンカウンターグループの実践

- 3 * 特別支援教育に関する専門内容・指導技術
- 3・教育相談的指導技術
- 3 * 発達障害に関する最新の情報に関して、実践例や資料を読み話し合う形等
- 3・生徒のメンタルてきなケア、カウンセリング
- 3・教育相談(カウンセリング)の方法
- 3・カウンセリング研修
- 3・児童理解についての研修
- 3・生徒の心理に関するもの
- 3・現場で困っていることを解決するために、カウンセリングを通して具体的な解決策が見つかるような研修
- 3・カウンセリングや発達障害などの専門的な知識
- 3・カウンセリングの実践などもうけてみたい
- 3 * 軽度発達障害をもつ生徒の行動特性やキャリア教育の観点から、高校生活をどのように支援してあげたらよいかの内容について…(事例や最新の情報を含めて)
- 3・軽度発達障害児への接し方
- 3 * カウンセリング、軽度発達障害の具体的な対処例
- 3 * 生徒理解、教育心理学など実践的な研修
- 3 * 大学でしか受けることができない研修。例えば専門的な内容、最新の学術研究、カウンセリングやIT活用といった現場で特に活用できるものなど
- 3・発達障害に対する実践的指導法。反社会的行動をとる生徒への対応
- 4 * LD, ADHDの子どもの理解と対応。事例検討の形で行うことができるうれしい
- 4 * 特別支援教育についての実践報告
- 4・学校心理士、スクールカウンセラー
- 4・カウンセリング
- 4 * カウンセリング等、心のケアの問題について、できれば分科会

形式にして、参加者が討論できるようなものだとありがたい

- 5・LD,ADHDに関すること
- 5・LD,ADHDなどの生徒への対応方法と他の機関との連携方法
- 5・養護学校3年目、理論的内容と実践的な内容を同時に学びたい。
- 5・発達障害に対する児童生徒の対応
- 5・生徒指導(メンタルヘルス、トラウマなど心のケアのあり方)
- 5・カウンセリング全般
- 5＊軽度発達障害(関連諸機関との連携のあり方とその実際)と学級経営

c 進路指導

- 2・キャリア教育
- 3・進路指導
- 3＊軽度発達障害をもつ生徒の行動特性やキャリア教育の観点から、高校生活をどのように支援してあげたらよいかの内容について…(事例や最新の情報を含めて)
- 5・キャリアカウンセリングに関するコーディネーター養成

③ 学級経営・学校経営

- 2・学級経営の実践例
- 2・多種多様な生徒との温かいクラス、機能するクラスづくり
- 2・専門的な視点から学校の現状を分析した内容
- 2＊教科や学級経営などの実践例が知りたい。成功例と失敗例など
- 2・学級経営の実践事例報告
- 3・実践的な授業経営
- 3・学級経営の新しい流れ
- 3・学級経営
- 3・実践的な学級経営
- 3・学級経営の事例検討
- 3・適正な校務分掌
- 4・危機管理や組織運営等のマネジメント研修

- 4・中高生及びその保護者の現状のケーススタディ等。社会心理学等、大学ならではの観点にも期待する
- 4・学級経営
- 4・学校の管理運営
- 5・これからの学校運営
- 5＊軽度発達障害(関連諸機関との連携のあり方とその実際)と学級経営

④ 保護者・地域

- 2＊生徒指導が大変な生徒及びその保護者に対する指導の仕方とコミュニケーション力の研修
- 2＊生徒や保護者対応のロールプレイ
- 3・無理難題を言う保護者への対応方法の成功や失敗の事例
- 4・保護者・地域とのコミュニケーションのとり方
- 4・保護者との関係
- 5・保護者や地域との関係づくり
- 5・学校・家庭・地域の連携
- 5・保護者とのうまいコミュニケーションのとりかた

⑤ 校務・評価

- 2・校務や成績処理の方法
- 2・評価に関する研修(成績)
- 2・自身の教育活動や環境の評価に関する研究
- 2・時間の使い方、効率UP講座
- 2＊ネットワークの研修、実践事例
- 2＊IT活用法
- 3・校務分掌体制
- 3＊IT研修 (①評価、方法の工夫 ②マクロ、エクセル等の利用)
- 4・学年主任、教務主任の立場と仕事等
- 4・学校事務処理

5・目標に準拠した評価のBとAの状況の具体例

5・観点別評価に関する研修

⑥ 法律関係

3・教育法規

3・教育に関する法律のこと

5・法律的な問題への対応

5・法規(教職員の服務に関する内容は現職の教員のほとんどが無知の状態)

⑦ 職場の人間関係他

4・教員間の人間関係づくり

5・一般常識(特に若手の教員)

⑧ 教育課題

2・これからの若者とその家庭をとりまく社会・労働環境とこれをふまえた学校教育の対応など、若者を社会的視点で把握する研修

3・今後の(未来の)学校教育のイメージが描けるような講義。※日々の仕事に精一杯で、未来思考になかなかたれません。「美しい国」ではありませんが、教育の未来を語るような場があればと思います。

3・教育・社会の方向性について考える

3*新しい学校の方向性を探り、現場から変えていこうと教師が元気の出る研修がうれしい。大学らしい特色を出して

⑨ 大学教育・研究

2・大学の研究報告、時事放談、高等教育の現状

2・教育原理。採用試験の勉強をするとき、改めて大学で学んだ教育原理の大切さを痛感。生徒を理解するうえでとても有用

- 2・大学ならではの最新の資料を扱った理論や実践
- 2・教育講演会
- 2・大学教員ならではの専門性を生かした研修
- 2・理論と実践のバランス
- 3＊理学部で専門的に研究している方向性や、理科の先端研究の紹介などの研修、これらと中学で教える理科とのつながり
- 3・教材研究のプラスとなるものが望ましい。例えば、社会であれば最近の研究(大学や最新の論文等)内容を紹介してもらえるような研修
- 3＊大学でしか受けることができない研修。例えば専門的な内容、最新の学術研究、カウンセリングやIT活用といった現場で特に活用できるものなど
- 3・大学には最新の情報技術や研究内容をレクチャーして欲しい。学校に長く勤務すれば、それに比例して大学時代に学んだ内容は古くなってしまう。教科研究の為に最新の課題に触れたい。
- 3＊生徒理解、教育心理学など実践的な研修
- 3・MBAで実践されているような豊富な事例を基にした経営学・会計学などを学びたい。また、高等学校の生徒にどうしたらそのダイナミズムが伝わるのか、その研究ができれば。
- 3・心理学
- 3＊新しい学校の方向性を探り、現場から変えていこうと教師が元気の出る研修がうれしい。大学らしい特色を出して
- 3・研究されている新しい理論・研究内容
- 4・専門家から何か高度なものを学びたい
- 4・文化人類学、社会学など人文分野の研修講演
- 4・言語学、第二言語習得など、専門分野の最近の展開
- 5・大学院レベルの研究を深めたい。論文をきちんと書けるくらい
の力が求められているし、必要
- 5・①児童心理 ②心理学 ③哲学講義
- 5・教育哲学

(2)実施方法

① 参加型

2・ワークショップやディベートなど参加型の研修

2・参加型の研修

2・ディスカッション形式での授業

2・ある単元を決めて、チームを組んで模擬授業を行い、その点について互いに評価し合い意見を交換するもの、講義形式のものでなく、自分自身がプレイ的なものを行う参加型のもの

2・ディベートや意見交換といった参加型の研修を期待

2*実践例やロールプレイングなど、学校現場ですぐに活かせるような事

2*現在自分が知らない、または専門外の情報(事例など)。それに対する実践力を、他の参加者とともに(ディベートなどを通じて)つけていきたい。より具体的な内容の研修「現場での事例」をもとにした研修を多くしてほしい

3・模擬授業などの実践的な研修

3*実際にカウンセリングをやってみる

3*エンカウンターグループの実践

3・実践的な研修

3・小人数で研修できるとよい

3・卒業生の先輩や教授から授業を受けたい

3・受講者全員が何か体験できる内容(ロールプレイングなど)を含んだ研修

3・異校種体験

3・講義に偏らず、実践的内容のものを集中的に行うもの

3・理論的でなく、実践的な内容

3・ワークショップや実習を伴った研修

4・テーマ別の分科会においてそれぞれ持ち寄った実践資料を活用し、大学の研修と照らし合わせ、今後のよりよい実践を見出し、いけるものになる研修

- 4・講師を囲んでの集団討論
- 4・ワークショップ形式の研修
- 4*カウンセリング等、心のケアの問題について、できれば分科会形式にして、参加者が討論できるようなものだとありがたい
- 5・実践的に学べる研修
- 5・現場の実状に即しながらも、理論的な背景もしっかりとおさえたworkshop

② 事例研究

- 2・具体的な場面での具体的な実践事例を体験を通して学べる機会を作してほしい
- 2・ディベートでの事例研究
- 2*実践例やロールプレイングなど、学校現場ですぐに活かせるような事
- 2*現在自分が知らない、または専門外の情報(事例など)。それに対する実践力を、他の参加者とともに(ディベートなどを通じて)つけていきたい。より具体的な内容の研修「現場での実例」をもとにした研修を多くしてほしい。
- 2・明日からでも使えるような、より実践的な研修
- 2・現場で実践的に生きるもの。できるだけ実践として事例のあるもの
- 2*ネットワークの研修・実践事例
- 3・専門に関する最新の情報に関して、実践例や資料を読み話し合う形など
- 3*教科指導の事例検討
- 3*教科の指導技術や不登校児の対応について。具体的な実践事例や他の人たちとの意見交換をしたい
- 3*教科、道徳、特別活動の継続的な実践事例、最新研究など
- 3*発達障害に関する最新の情報に関して、実践例や資料を読み話し合う形等

3 *生徒指導の事例検討

3・事例研究(カンファレンス)

3 *軽度発達障害をもつ生徒の行動特性やキャリア教育の観点から、高校生活をどのように支援してあげたらよいかの内容について…(事例や最新の情報を含めて)

3 *カウンセリング、軽度発達障害の具体的な対処例

3・本当に実践的な教員を長くされている方の話などを聞きたい

3・実践的なもの。子どもにかえるもの。役に立つもの

3・実践的なもの。先輩教員による事例研究や仲間同士での話し合い等

3・現場の実例に即した問題解決例

3・事例検討

4・事例や実際にあるような場面を設定して

4・実践事例の検討中心でスーパーバイザーが同席している研修

4・学生との懇談、事例研究(裁判員制度、介護保険制度のその後など)

4・実践事例の検討や危機管理などの演習。大学生を活用したピアサポートづくりの研修

4 *生徒理解の方法…臨床心理士等によるケースワーク研修

4 *LD, ADHDの子どもの理解と対応。事例検討の形で行うことができらうらしい

4 *実践事例に基づく教科専門

4 *特別支援教育の対象生徒にあてはまる教材研究の事例等の紹介

4 *特別支援教育についての実践報告

5・教育課題に即した具体的な事例研究

5・演習や講義等を組み合わせるなどして、より実践に即した研修なら大いに参加したい。日々悩んでいる事が研修によって解決の糸口が見つかるのであれば誰もが参加したいと考える

5・実践的で現場ですぐに役立つもの

5・現場の生の事象から整理し、真の教育現場の状況を発信し、主

張するような、そんな講義や研修

5・現職教師の事例発表

5*実際の授業実践をもとにした研修

5*生徒を授業にひきつける指導方法や教材教具の実践例をみて研修(次世代の教員に)

5*教育内容と指導方法—実践例をもとに

③ 相談・交流会

2・教員同士の悩み相談会

2・他の卒業生との意見交流。いろいろな学校に勤める先生方のお話を聞きたい

2・大学が「同じ大学を卒業した仲間」として、集まることのできる場であることの利点を生かしてもらいたい。

3・県の枠を超えて情報交換できる場

3・学生との交流

3・学生も一緒に参加、実践的

3・他県の先生方と情報交換する機会が少ないので他県の先生方と研修したい

3・大学生と話をするだけでも違うと思いますが、実践的な研修ができれば。

3・他校の情報交換を交えた、課題等の研修会

3・他県の実情情報

4・学習サポーターや民間の出張授業や大学生との交流など

4・学生と一緒にできる研修

4・他の都道府県の方との意見、情報交換

5・学生達との座談会 (①学校教育で望まれるもの ②学校教育の現実と教育の持つ意味 ③学校の役割 等について)

(3)参加に際しての条件等

2・県外なので2~3日にわたって、落ち着いて学べる形で行っても

らえると参加しやすい

2・アクセス

2・土曜や日曜

2・夏休みに、出張扱いでいける内容にしてほしい

2・土曜日などは逆に行きやすい

3・キャリア別研修

3・最新の話題

3・長期休暇中

3・代替教員がいないと平日は無理

3・夏季休業中に行けるもの

4・負担に感じないもの。現場をはなれなくても、通信教育的なものでも、可能かな。長期休暇は、現在、夏季休暇5日間のみ。部活を見られる大切な時期でもある。

4・図書館の開放

5・土日、長期休業中の実施を希望